

躍進 京滋の中小企業

自動車エンジン部品「ドライブプレート」を世界

で初めてプレス加工のみで製造する技術を開発し、本年度の「ものづくり日本大賞」(経済産業省など主催)で優秀賞を受賞した。荒木邦彦会長は「うちの強みは開発力と発想力」と胸を張る。

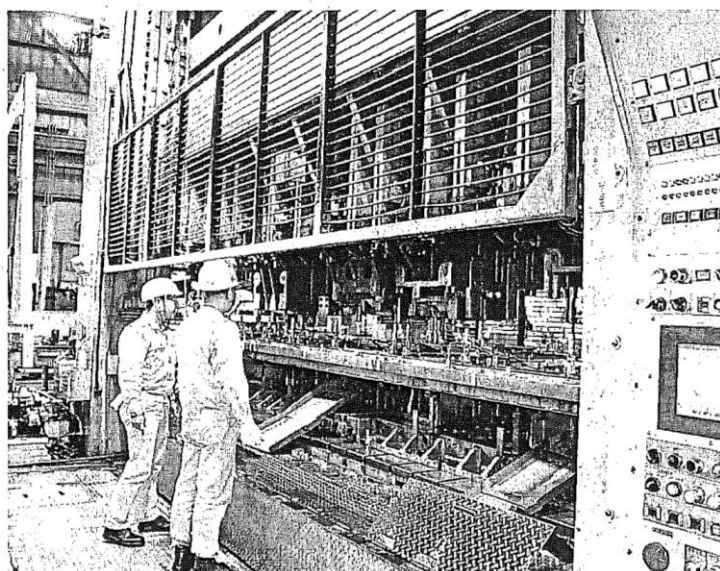
ドライブプレートは、直径30センチほどの円盤形で、周囲にギザギザの歯が付いている。通常はリング状の歯と円盤を別々に作り後で溶接するが、平安製作所は一枚の鋼板をプレス機で打ち抜いたり、折り曲げたりして製造する技術を開発した。大幅な軽量化や低コスト化を達成し、1997年から一部の自動車メーカー向けに量産している。

ドライブプレート以外にも、切削や溶接、鋳造で生産していたミッション部品を軽量化するため、主にプレス機だけで作る技術を相次いで開発した。少しでも車体を軽くして燃費を向上させようと考える自動車メーカーから注目を集めている。

技術向上へ、社内の士気は高い。課長以下の社員が行う業務の改善提案は毎月460件と、1人当たり平均3・5件に上

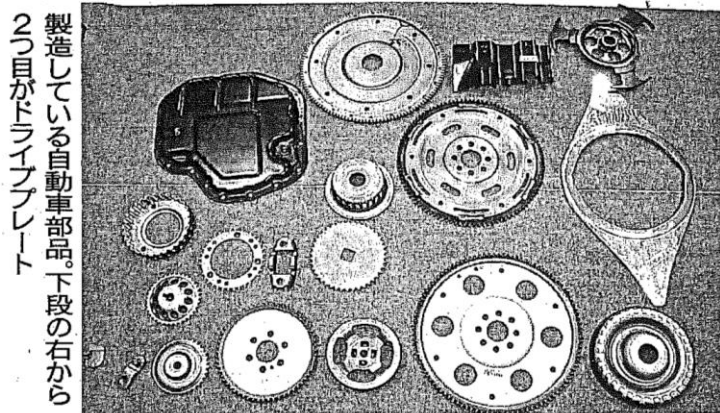
平安製作所

(高島市マキノ町)



大型プレス機で自動車部品を製造する社員
(高島市マキノ町・平安製作所)

プレス技術で車部品製造



製造している自動車部品。下段の右から2つ目がドライブプレート

る。円高時代、大手自動車メーカー部品メーカー、パミンド(シカゴ)は安い人件費を求めて工場(ヤカルタ市)と技術供与や人材を新興国に移転させたが、「メー育成で提携する契約を結んだ。新しい工法や材料を開発している。荒木会長は「今後も他社に先駆けて技術を開発し、技術を外に売っていく。今後は電気自動車の部品など新たな分野にも挑戦する」と意気込む。

14年には京都府や大阪府の金属加工会社8社と自動

(三村智哉)

1939年に京都市中京区で創立。40年代には自動車向けに木炭からガスを発生させる装置を開発し、国内各地に普及した。自動車部品

メモ

の生産を伸ばし、2003年に高島市マキノ町に本社、工場を集約した。15年3月期の売上高は約65億円。従業員約170人。